



3

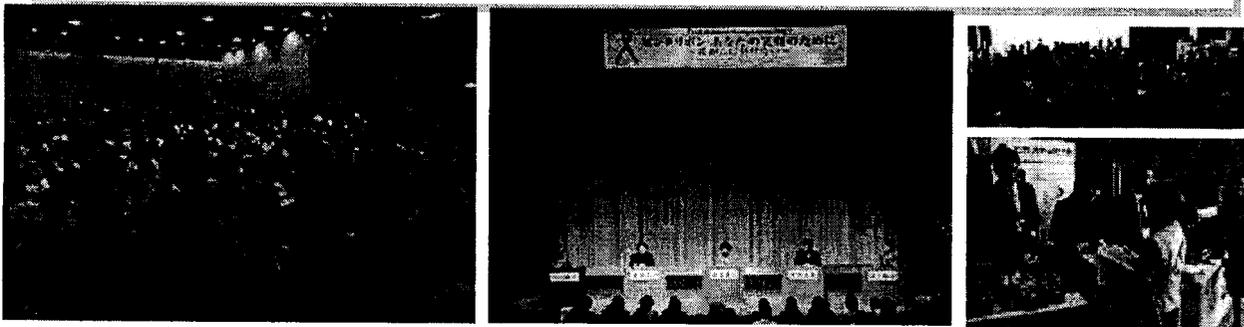
シンポジウム(2) 「ピンクリボン あなたの笑顔のために ～乳がんに負けない～」

アンケートによると、東京会場の参加者は、「女性」が9割で大半を占め、年代は第1部では「50代」(32.3%)、「60代」(24.4%)、「40代」(21.6%)と続き、第2部では「50代」(29.8%)、「40代」(28.2%)、「60代」(20.4%)と続きます。平均年齢は、1部は53.2歳となり、2部は52.8歳でした。(但し1部・2部をあわせた申込者データでは、「50代」(28.4%)、「40代」(21.7%)、「60代」(20.3%)と続き、平均年齢は、52.8歳となりました。) 参加動機は、第1部では「体験がある」が47.5%、「乳がんに関心がある」が28.6%、「家族・知人に体験者」が21.6%と続きました。第2部では、「体験がある」が83.1%、次いで「家族・知人に体験者」が11.7%で、術後1年未満から2～3年未満の経験者の割合が高くみられました。(3年未満の人で5割以上) 当シンポジウム開催を知った経路として、今年は「新聞」に次いで「DM」となり、昨年のリピーターが第1・第2部共に40%を超えました。

※アンケート集計をご参照ください

10月6日(土) 東京・有楽町朝日ホール

- 主催 朝日新聞社、(財)日本対がん協会
- 後援 厚生労働省、(社)日本医師会、(社)日本看護協会、東京都
- 特別協賛 コニカミノルタエムジー(株)、中外製薬(株)
- 協賛 リコーリース(株)、住友信託銀行(株)、ピーシーエー生命保険(株)、オーティコン(株)
(株)ワコール、米国研究製薬工業協会(PhRMA)、日本化薬(株)
- 協力 日本農産工業(株)、(株)ハイネット



PROGRAM

第1部(一般対象)

- 13:00～13:05 開会挨拶 朝日新聞社
- 13:05～13:35 基調講演 「乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の重要性
—笑って退院できるように—」(30分)
講師：愛知県がんセンター中央乳癌部長 岩田 広治先生
- 13:35～14:05 対談 「がんなんてなによ!」(30分)
ゲスト：女優 大空 真弓さん
聞き手：Breast Cancer Network Japan-あけぼの会 会長 ワット隆子さん
- 14:05～15:00 パネルディスカッション 「ピンクリボン あなたの笑顔のために～乳がんに負けない～」(55分)
パネリスト：岩田広治先生、大空真弓さん、中村清吾先生、武石優子さん
コーディネーター：ワット隆子さん

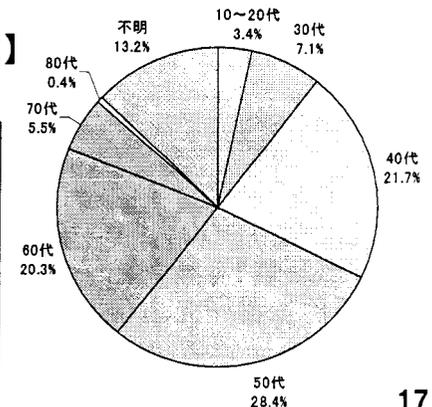
完全入場無料です。

第2部(乳がん体験者対象)

- 16:00～16:05 開会挨拶 (財)日本対がん協会
- 16:05～17:05 特別講演 「乳癌の標準治療2007～今後の動向を踏まえて—」(60分)
講師：愛知県がんセンター長 乳癌外科部長 中村 清吾先生
- 17:05～18:00 質疑応答 「乳がん治療 Q & A」(35分)
司会者：中村清吾先生
講師：愛知県がんセンター長 乳癌外科部長 武石優子さん
進行：河崎早苗さん

後援会：河崎 早苗さん

【年齢別構成】



【参加者と内訳】

	組	名
第1部のみ	408	566
第1部、第2部両方	323	517
第2部のみ	451	638
合計	1182	1721



シンポジウム (3)

「ピンクリボン あなたの笑顔のために ～乳がんに負けない～」

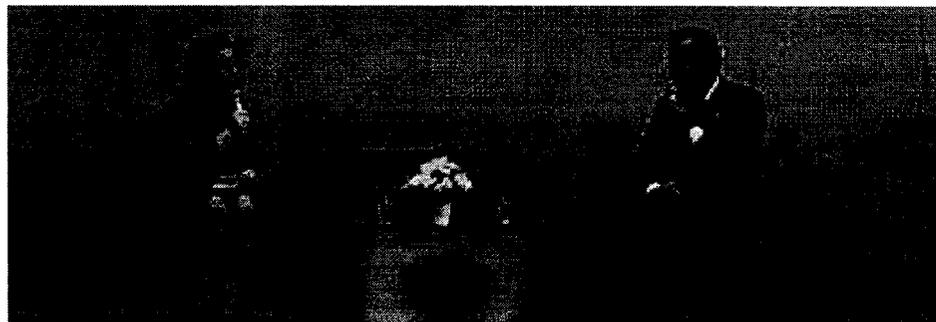
10月21日(日) 仙台国際センター

アンケートによると仙台会場の参加者は、「男性」が8.7%、「女性」が87.7%と、「女性」が大半を占めています。年代は、「50代」が最も高く29.4%、次いで「40代」が23.4%、「60代」が21.0%と続きます。平均年齢は、53.1歳でした。(但し、申込者データでは、「50代」が23.9%、「40代」が18.6%、「60代」が17.4%と続き、平均年齢は、52.3歳でした)ピンクリボンの認知度は77.4%で、認知時期で一番多かったのが「1年前」で29.2%でした。東京・神戸に比べると体験者数が少なく(34.1%)、「乳がんに関心がある」(33.7%)という理由で参加した人が多くみられました。ピンクリボンフェスティバルの仙台開催によって、ピンクリボンを認知し、乳がんに関心をもった人が多いことがうかがわれました。仙台会場では、乳がんの基礎知識や最新の診断方法、家族の体験談といったプログラム構成。そのうち基調講演Ⅰ、Ⅱで「参考になった」が8割以上を占め高い数値になっています。当シンポジウムを知った経路としては、「新聞」が75%を断トツに高く、地元紙との共催開催の強みが伺えました。 ※アンケート集計をご参照ください

- 主催 朝日新聞社、河北新報社、東日本放送、(財)日本対がん協会
- 後援 厚生労働省、(社)日本医師会、(社)日本看護協会、宮城県、仙台市、仙台商工会議所
- 支援 ピンクリボンフェスティバル in 仙台 推進委員会(仙台市、宮城県、仙台商工会議所、宮城県対がん協会、(財)仙台観光コンベンション協会、NPO法人キューオーエル、朝日ウィル、東北大学病院 乳腺・内分泌外科、(財)せんだい男女共同参画財団、仙台女子プロレス、東日本放送、河北新報社、朝日新聞仙台総局、朝日新聞社
- 協力 (株)ワコール、コセキ(株)

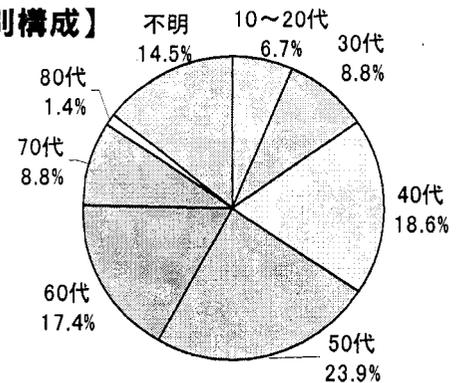
【申込方法】

はがき		FAX		E-mail		合計	
組	名	組	名	組	名	組	名
260	424	71	114	74	123	405	661



PROGRAM	
13:00~13:05	開会挨拶 朝日新聞社
13:06~13:30	基調講演Ⅰ 「乳がんの早期発見の重要性と婚育後による検診」(30分) 講師：東北大学大学院医学系研究科外科病態学専攻腫瘍外科学専攻教授 大内 肇明先生
13:35~14:05	基調講演Ⅱ 「乳がんの早期診断の重要性-生命と生活への影響-」(30分) 講師：聖マリアンナ医科大学大学院医学系乳腺・内分泌外科教授 河内 幸雄先生 同大学乳腺・内分泌外科部長 福田 麗先生
14:05~14:15	休憩
14:15~14:45	特別講演 「真と私の乳がん闘争」(30分) ゲスト：俳優 村井 剛大さん 聞き手：Breast Cancer Network Japan-あけぼの会 会長 ワット 隆子さん
14:45~15:00	休憩
15:00~18:00	パネルディスカッション 「ピンクリボン あなたの笑顔のために～乳がんに負けない～」(90分) パネリスト：大内肇明先生、福田麗先生、村井剛大さん、ワット隆子さん コーディネーター：NHK仙台放送局 黒田 尚さん
18:00	閉会挨拶 (財)日本対がん協会

【年齢別構成】





3

シンポジウム(4)

「ピンクリボン あなたの笑顔のために ~乳がんに負けない~」

10月27日(土) 神戸ポートピアホール

神戸会場の参加者は、「男性」が8.8%、「女性」が85.8%と、「女性」が大半を占めています。他会場に比べ男性の参加が多く、昨年から比べても増加が見られます。年代は、「40代」が最も高く26.9%、次いで「50代」が23.9%、「60代」が19.2%と続き、平均年齢は、52.6歳でした。(但し、申込者データでは、「50代」23.8%、「40代」20.0%、「60代」17.7%と続き、平均年齢は、51.8歳でした。

神戸会場では、今年初めて患者さんやご家族に向けて最新治療についての内容を含んだプログラムを構成。その基調講演Ⅱでは、「大変参考になった」が5割を超えており、「参考になった」とあわせると8割強となった。アンケートからも最新の治療法や薬物治療などについて、「大変勉強になった」「よくわかった」との声をいただきました。また音無美紀子さんとワット隆子さんの対談では、ご自身の乳がんの体験とともに「うつ」でのつらい体験もお話しされ、会場内から「感動した」「共感できた」との感想を多数いただき、大変好評でした。

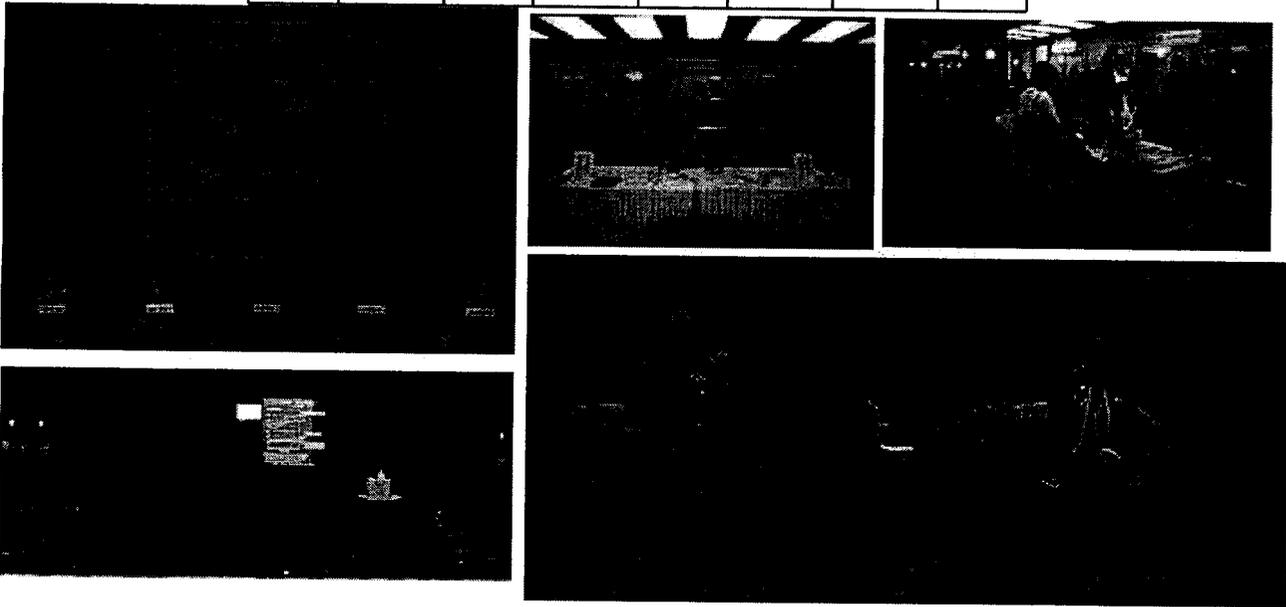
※アンケート集計をご参照ください

- 主催 朝日新聞社、(財)日本対がん協会
- 後援 厚生労働省、(社)日本医師会、(社)日本看護協会、兵庫県、神戸市、神戸商工会議所
- 特別協賛 中外製薬(株)
- 協賛 (株)シームス、住友信託銀行(株)
- 協力 (株)ワコール、桃谷順天館グループ、シスメックス(株)(株)島津製作所

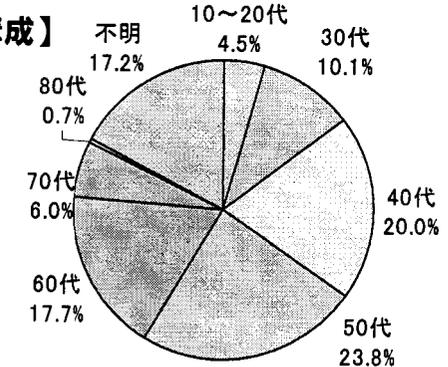
【申込方法】

はがき		FAX		E-mail		合計	
組	名	組	名	組	名	組	名
250	423	112	242	139	238	501	903

PROGRAM	
13:00~13:05	開会式 朝日新聞社
13:05~13:35	基調講演Ⅱ 「乳がんの早期診断と治療の重要性」(30分) 講師：国立がん研究センター放射線科部長 遠藤登真子先生
13:35~14:05	基調講演Ⅲ 「乳がん治療最新動向」(30分) 講師：京都大学乳癌外科教授 戸井 雅和先生
14:05~14:15	休憩
14:15~14:45	対談 「乳がんを乗り越えて」(30分) ゲスト：女優 音無美紀子さん 聞き手：Breast Cancer Network Japan-おたけの会 会長 ワット隆子さん
14:45~15:00	休憩
15:00~16:00	シンポジウム 「ピンクリボン あなたの笑顔のために~乳がんに負けない~」(60分) パネリスト：遠藤登真子先生、戸井雅和先生、音無美紀子さん、ワット隆子さん コーディネーター：朝日新聞編集委員 朝庭 尚さん
16:00	閉会式 (財)日本対がん協会



【年齢別構成】





第3回ピンクリボンデザイン大賞(1)

*詳細は、「ピンクリボン・デザイン大賞報告書」をご参照ください。

ピンクリボンデザイン大賞は、よりダイレクトに、乳がんを自分の問題として意識し、検診の大切さを伝えるためにメッセージ性の強い作品(ポスター、コピー等)を公募いたしました。10月のフェスティバルにおいて最優秀賞作品をポスター化し、駅張り・中吊り広告などで活用しました。昨年と同じく、ポスター部門、東京都コピー部門、ノベルティ部門のマグカップの部に加え、今年はミニトートバッグの部を新設しました。ミニトートバッグはスマイルウオーク大会の記念品として参加者にお渡しし、マグカップはアプレシオのカフェなどで使用されました。ポスター部門には1,643点、東京都コピー部門には7,902点、マグカップの部には342点、ミニトートバッグの部には269点、総数10,156点の応募があり、はじめて1万点を超えました。審査の結果、別紙の通り、各部門最優秀賞1点、優秀賞2点、入選2点、ポスター部門については佳作20点が決定しました。

【主催】ピンクリボン・フェスティバル運営委員会(朝日新聞社、(財)日本対がん協会ほか)
 【後援】厚生労働省、東京都 【特別協力】: 宣伝会議、ヤフー(株)、トランスメディア(株) 【協賛】(株)ワコール
 【協力】富士フイルムメディカル(株)、(株)インパクト21、(株)アプレシオ、STUART WEITZMAN、メスキュード医療安全基金、(株)イトーキ、王子ネピア(株)

- 募集期間: 5月13日～7月12日
- 応募件数: ポスター部門: 1,643 作品 / 東京都コピー部門 7,902作品 / マグカップの部 342作品 / ミニトートバッグの部 269点 総数10,156点
- 審査委員: 眞木準氏(コピーライター)、中村禎氏(コピーライター)、中村聖子氏(クリエイティブディレクター)、渡邊良重氏(グラフィックデザイナー)、高井薫氏(アートディレクター)
- 活用方法: (1)ポスター部門最優秀賞作: 駅貼りポスター、中吊り広告など交通広告として使用。
 ※東京都コピー部門とともにJR中央線(10月2日～16日)、都営大江戸線(10月1日～7日)で車両広告ジャックを実施(東京都による)。
 ▽AERA、GLITTERなど雑誌広告。※その他、全国の自治体にデザインの無償提供をご案内(啓発ポスターとしての活用を呼びかけています)
 (2)トートバッグの部最優秀賞作: 「ピンクリボンスマイルウオーク」の記念品。(3)マグカップの部最優秀賞作: アプレシオのカフェで使用
- 贈賞関係: ▽ポスター部門: 最優秀賞1点(50万円)、優秀賞2点、入選2点、佳作20点
 ▽東京都コピー部門: 最優秀賞1点(10万円)、優秀賞2点、入選2点 ▽ノベルティ部門: 最優秀賞各1点(20万円)、優秀賞各2点、入選各2点
 ▽Yahoo! JAPAN賞: ポスター部門1点(10万円)、東京都コピー部門1点(5万円)
 ノベルティ部門各1点(5万円) ※Yahoo! JAPAN賞: 9月3日から9月14日まで各部門上位10作品(ノベルティ部門は5作品)を掲載し、ユーザー投票を実施。23,497人の投票によってYahoo! JAPAN賞が決定。 ※入賞者には協賛社などから記念品を贈呈。
- 結果発表: asahi.com「ピンクリボンフェスティバル公式サイト」(10月1日) / Yahoo! JAPANピンクリボン特設ページ(10月1日)
 AERA(11月発売号)、宣伝会議(10月1日発売号)、GLITTER(10月6日発売号)
- 表彰式: 各部門最優秀賞 & Yahoo! JAPAN受賞者対象。10月7日(日)12時30分～ 東京ミッドタウンにて。 ※スマイルウオーク東京会場にて
- パネル展: 【会期】2007年10月1日(月)～10月31日(水)
 【会場】FUJIFILM SQUARE(東京ミッドタウン内)